

続・白糠のアイヌ語地名

# 茶路川筋の アイヌ語地名

## 第10回 (最終回)

●エンジュ（イヌエンジュ／犬）

エンジユは、心材の濃い褐色と  
色のコントラストや光沢のある木  
目を生かし、床柱、家具、盆、ク  
ラフト、フローリングのほか、三

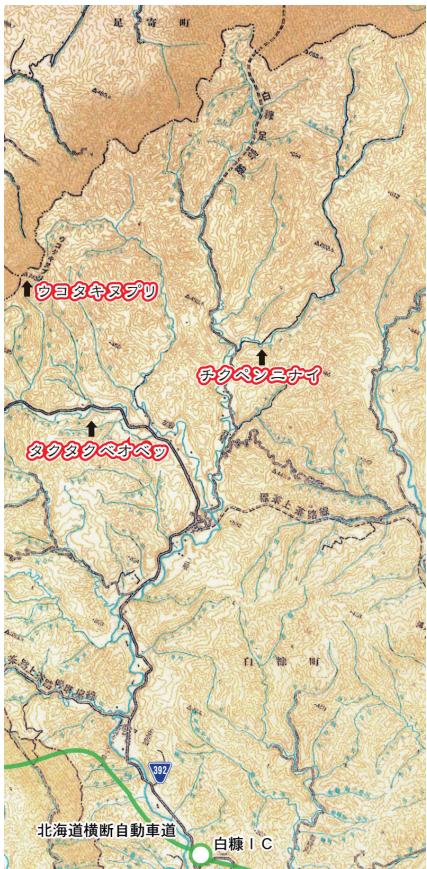
この山は「ユクランヌプリ（ユクラン）・ラン（下りる）・ヌプリ（ヌ）（山）」とも呼ばれ、昔、鹿をつかさどる神様が天から鹿を下ろしたところと言う伝説が残つています。

●イナウシ・

『白糠のアイヌ語地名』には、ウコタキヌブリに関係した地名として「イナウシペ」が紹介されています。

北海道では、腐りにくさから鉄道の枕木にも使いました。また、幹や枝を傷つけると臭いがるので、昔、アイヌの人たちは、その臭いが病魔を寄せ付けないとして、チセ（家）の骨組みに用いていたとのことです。（参考・北海道総合研究機構林産試験場ホームページ「道産木材データベース」）

○ウコタキヌプリ  
「ウコタキヌプリ」は、ルーケ  
シチヤロ川の先、白糠町と本別町



○タクタクベオベツ（川）  
「タクタクベオベツ川」は、左  
股から本別町に向かう国道392  
号に沿つて流れている川で、「タ  
ク・タク（ころごろした石）・ベ  
（あるもの）・オ（そこに）・ベ  
ツ（川）」と言う意味がありま  
す。

それを「タク・タク」と重ねていいこと、また、この川が険しい山岳地帯から流れていることからも大きな石がごろごろと無数にあるようすを知ることができます。

このことは、明治時代のアイヌ語研究者永田方正も『北海道蝦夷語地名解』で「大石多キ川、安政帳二大川ノ内大石アル処トアル」と記載しています。

○チクペンニナイ

「チクペニンナイ」は、茶路川が右股から3キロメートルほど北上したところで分かれている川で、「チクペニンナイ」（チクペニ／えんじゅ）・ナイ（沢）と言う意味から、「えんじゅの木が生えている沢」と訳されます。

と足寄町の境にある山で、標高は  
745メトル。白糠の山のなかでは、  
阿寒富士（1476メトル）に次いで  
2番目に高い山です。